



お子 っお子 できる子

新井小学校たより 5月号

令和2年5月27日

HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/> 【再開しました】

新型コロナ禍の中で求められる決断

校長 宮野 正則

5月7日（木）に学校が再開し、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。例年であれば、とても楽しみな大型連休ですが、今年は国の緊急事態宣言を受けて、全国的に自粛ムードでの連休となりました。そのような状況の中、子どもたちは学校からの約束を守り、家庭生活を工夫して過ごしたようです。

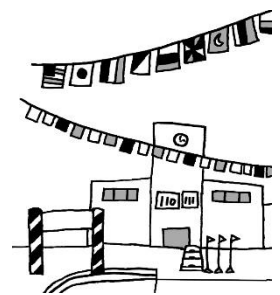
さて、学校では、4月以降、国や教育委員会の方針を基に、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、教育活動の方法や内容を検討しながら実施しています。1学期最大の学校行事である運動会についても、4月初めから検討を重ねてきました。

当初は、「屋外のため、密閉にはならない。密集については、観客を入れず、児童の応援席や整列等で隣との間隔を広くとれば克服できる。団体種目を止め、徒競走など接触しない競技だけを実施すれば密接も回避できる」など、問題点を一つ一つ解決し、何とか実施する方向で検討を進めました。その根底にあったのは、子どもたちの運動会への期待と、とりわけ最高学年である6年生に小学校生活最後の思い出を残してあげたいという強い思いです。現6年生は3月3日（火）からの臨時休業により6年生を送る会を企画・準備したが実行できなかつたり、卒業式に参加できなかつたりしたことで、最高学年になるという自覚を高める機会を逸していました。「6年生になったら、応援団長になる」「全校児童や大勢の保護者の前でマーチングバンドのドリル演奏を披露したい」など、目標をもっていた児童は多かったはずですが、6年生の心中を察するとき、「小学校生活最後の運動会を何としてでも実施したい。最高の思い出を残してあげたい」という強い思いがありました。妙高市教育委員会には「実施可否の判断については学校に任せてもらいたい。実施に当たっての留意点等を示してほしい」と要望しました。

しかし、その一方で、実施しても「大きな声での応援はできない」「心や力を合わせての団体競技はできない」など、本来の運動会の姿とは程遠いものになります。果たして目的が達成できるのか、児童に達成感や成就感を実感させることができるのかという不安もあります。何よりも、無理をして実施し、万が一児童の中に感染者が出たらどうするのかという危惧がありました。児童の健康と安全、生命を第一に考えたとき、5月実施は困難と判断せざるを得ませんでした。

延期についても検討しました。2学期には、陸上大会、管楽器フェスティバルなど、対外的な行事が予定されています。若竹フェスティバルやマラソン大会などの行事もあります。生活科や総合的な学習も佳境に入ります。収束の見通しがもてない中、様々な教育活動の実施の可否、優先順位や児童の負担等を考慮し、中止に至りました。（後日、陸上大会と管楽器フェスティバルは中止）

現在、妙高市の様々なイベントや活動が中止になっています。活躍の場が失われた6年生のことを考えると無念でなりません。これからもコロナ禍での様々な制約を受け、決断が求められます。「どのように対応するか。どうすればできるか」など、実施に向けて教職員一丸となって知恵を出し合いながら、児童の健康と安全、生命を第一に考えて決断していきます。



第1回学校運営協議会を行いました



5月8日（金）に、第1回の学校運営協議会を行いました。臨時休業明けの新井小学校の様子を知っていただこうと、授業を参観していただきました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の具体的な対応やありのままの子どもの姿を基に、子どもを育てることについて意見交流が行われました。改めて、学校と地域が力を合わせ、子どもたちの成長を支えていこうと確認し合いました。

また、委員の皆様からは、今年度の学校経営方針等について承認していただきました。今後も、子どもや教職員、保護者、地域にとって魅力あるコミュニティ・スクールとなるように取り組んでいきます。

〈学校運営協議会 委員〉

No.	氏名（敬称略）	所属等	新任	備考
1	田中 功	矢代地域づくり協議会 会長		会長
2	佐藤 茂	姫川原地区コミュニティ運営協議会 会長	○	副会長
3	新井 時男	H29～R 元年学校運営協議会 会長		
4	増村 正勝	白山町町内会 会長		
5	白瀬 市雄	斐太南部地区協議会 副会長	○	
6	丸山 瑞穂	斐太南保育園 園長	○	
7	宮田 友子	主任児童委員		
8	宮腰トク子	地域人材コーディネーター		
9	佐藤 賢治	上越教育大学 特任教授		
10	宮越 元樹	PTA 会長		
11	横尾 敏彦	PTA 副会長	○	事務局長
12	島田亜希子	PTA 副会長	○	
13	宮野 正則	校長		
14	三田村尚子	主幹教諭		事務局次長

各種大会・イベント等の中止が決定

以下の行事、各種大会、イベント等の中止の連絡がきました。ご承知おきください。

妙高市フレンドスクール（妙高市全6年生対象）

あらいまつり

上越地区管楽器フェスティバル

上越地区学校合唱大会

妙高市親善陸上大会

上越地区陸上大会

上越地区水泳大会

教科書展示のご案内

本年度、妙高市の全小中学校の全教科の教科書が新しく採択されました。各出版社の見本が、下記の通り展示されます。ぜひ、立ち寄っていただき、手にとってご覧ください。

期間：6月12日（金）～25日（木）

会場：わくわくランドあらい 2階会議室

時間：10:00～17:00 ※月曜休館日

スクールカウンセラー等学校派遣事業のお知らせ

今年度も専門のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが来校し、子どもや保護者の悩みを聞いたり、相談を受けたりしています。是非ご活用いただきたいと思います。

相談希望される方は、日程を相談させていただきますので、いつでも担任または生活指導主任の月岡にお知らせください。
（新井小学校 72-2612）

■スクールカウンセラー 小林久美子さん（6/11 7/9 9/3 10/8 12/10）

■スクールソーシャルワーカー 小嶋久美子さん 渡辺広大さん（上越教育事務所）

栗田きよ子さん（妙高市 子育て支援課）

新井小学校のホームページが、令和2年度に更新できました。どうぞご覧ください。

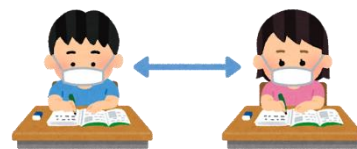
学校生活における工夫や現状

新井小学校では、子どもとともに、様々な工夫をしながら、大切な時間を過ごしています。その一部を紹介します。

教室での授業

密接を避けるために、日頃多用しているペア・小グループでの話し合いは、避けています。その分、自分の考えをノートなどに書き、それを全体に発表することを多くしています。タブレット端末を使って、ノートやシートの実物を次々と大型モニターに映したり、ホワイトボードや黒板を活用して考えを紹介し、比較したり分類したりすることもあります。

また、机と机の間隔を広くとり、ワークスペースとの境ぎりぎりまで机を並べています。時には、ワークスペースも使って授業を行っています。マスクをして発表や音読をしますので、いつもより大きな声を出すよう励ましています。教師の発問や指示も、マスクを通しての発声になりますので、ゆっくりはっきり話したり、板書を使ったりして、全員にしっかりと伝わるように心がけています。



マスクの効用（？）か、授業中の私語は減っており、落ち着いた雰囲気で行われています。

校外学習

例年のように、施設や工場に出かけて見学させてもらうのが難しい状況です。それを補完するために、動画や画像を見て学習を進めています。

今後、可能になった場合は、人との距離をとって、感染リスクをできるだけ低くして出かけたと思います。移動に使うスクールバスの配車台数を増やせるよう教育委員会に要望し、承諾を得たところです。

1年生の春探し、2年生の野菜作り、3年生の新井の町探検、4年生の森や川の学習、5年生の米作り、6年生のキャリア教育など、制約のある中ですが、できることを工夫して実施しています。やらないことを決めて生まれた学習時間を有効活用し、活動を企画しています。

体育授業

晴天率の高い5月は、屋外の運動をしてきました。主に、短距離走とリレーです。タイムを計測して、工夫やトレーニングがタイムの向上につながることを実感できるようにしてきた学年もありました。

6月以降は、雨のため屋内の体育授業が多くなります。その際は、大勢の児童が同じ場所で運動しないようにします。例えば、1組は体育館西側でマット運動、2組は東側で跳び箱運動、3組は教室で保健学習というような工夫をすることで、密接・密集をできるだけ避けるようにします。1学期に学習する内容が学級により異なることにはなりますが、年度末までに全ての内容が習得できるようにします。

学校でしかできない学習

計算練習、漢字練習、単元の復習プリント…。そのような学習は、もし再度、臨時休業になった場合に家庭でもできる学習です。それに比べて、学校でしかできない学習もあります。

それまで経験したことがない事象や考え方、今までもっていた知識と矛盾するものとの出会いなど、そこから問題意識が生まれ、学習課題ができていくような授業を大切にしています。



子どもたちが、自ら手洗いやうがいをするようになりました。「密になってるよ」と子ども同士で声を掛ける様子も観られます。子どもの対応力に感心します。

友達と思いっきりくっついたり、じゃれあったりできない状況が感染拡大防止（子どもの命最優先）であることや「新しいきまり」を子どもが理解し、そこにかかる職員の思いも伝わるよう、でき得る限り言葉で伝えていきます。また、じっくり担任と1対1で話をする「教育相談」を実施したり、日記や図工の作品等から心の状態をキャッチしたりして、子どものやる気や不安な気持ちに対応しています。

今年度の校内研修

〈研究主題〉 「主体的に対話し、高め合う児童の育成」

昨年度の授業研究を通して、自力解決し「自分の考えを話そう」と対話する児童の姿が増えるとともに、児童の考えの表し方を教師が工夫することで相手に分かるように伝えようとする児童の姿が増えました。一方、対話を通して、学習したことをまとめたり相手の考えのよさに気付いたりする姿が少なく、対話の質を向上していくことが課題です。

今年度も研究教科を算数に絞り、児童の学習意欲を大切にしながら、算数科の読解力を育てるベースとして、考えの表し方を工夫します。さらに、対話を通じて生まれた学びを共有化していきます。「振り返る」活動を通じ、学びを確かなものとしていきます。



1 主体的な対話を促し、高め合う姿を目指す授業づくり

「解き方を伝えたい」「友達の見聞を聞きたい」という思いを高めることで児童が自分の考えをもち、その表現方法や伝え方を教師が工夫することで、児童に「相手に分かるように話す」「よく聞き、相手の考えを正しく理解する」力が身に付くと考えました。また、授業時間の中で「対話する」場面や「振り返る」場面の設定を工夫したり、対話を通じた学びを共有化したりすることで、自分の考えとの違いやよさに気付かせ、「高め合う」姿を育てていきます。

① 課題設定の工夫

② 児童の考えの表し方の工夫

順序よく（論理的に）話すための手立てを工夫します。学年の児童の実態に応じて、以下のポイントを重視します。

- ・算数的なキーワードを使って考えを話す（書く）。
- ・論理的な書き方を示す。「考え→理由」
- ・順序を示す言葉「はじめに」「次に」「つまり」を使う。
- ・よい話し方（書き方）のモデルを示す。
- ・ヒントを使って考えを書く。

対話のポイント

- ① しっかり聞く。
- ② 受け止める。
- ③ 受けて返す。
- ④ 最後に考えをまとめる。

③ 「対話する」場面と「振り返る」場面の意図的な設定

児童に対話を任せる場面、教師が介入する場面、学びを「振り返る」場面を考え、指導過程や学習活動を構成します。

- ・付箋やネームプレート等を用いて意見の表出方法を工夫する。
- ・発言者が教師ではなく児童に向かって話すように意識させ、児童の発言を響かせる。
- ・対話を通して気付いたこと、分かったことを共有化したり自分の考えに取り入れたりする「振り返る」活動を行う。対話の中で振り返る、自分で書く、問題を解く等、多様な振り返りで学びを深める。

2 安心して自己表出ができ、思いを語れるような受容的学級集団づくり

「対話」を成り立たせるには、どんな意見でも受容される学級であることが土台となります。そのために、傾聴の態度を身に付けたり、テーマに沿って自由に話し合う経験を積んだりすることが必要です。今年は、学級ごとに話す聞くポイントを決めて取り組み、学級集団づくりに生かします。また、教室環境のユニバーサルデザイン化を進めていきます。



3 自信をもって話す能力（スキル）を付ける指導

自信をもって話す、相手に聞こえる声を出すことは、「対話する」場面で自分の思いを相手に分かるように伝えるためにも大切なため、意図的に音声発表の基礎を養う活動を設定します。国語授業や宿題で声を出す機会を増やします。